

令和5年度 北見カトリック学園 遠軽ひばり幼稚園 学校評価

1. 教育目標

- 愛する子ども 私たちは誰もがみな神さまに創られ、愛されていると感じ、いつも見守っていて下さる神さまを信じ、祈り、どんな人をも分け隔てなく愛することができる子どもを育てる。
- 正しい子ども 間違っていることを正せる、強い心と身体、そして行動力を持つ子を育てる。
- 考える子ども 様々な経験を通し、興味関心を持ち、思慮深く考え、自分で研究することのできる、個性・創造性豊かな子どもを育てる。

2. 教育目標達成に向けての5年度の重点

- イエスキリストの愛の精神を伝え、共に生きる子どもへと導く。
- ・日常生活を通し、自然や環境の中で、神さまの恵みに気づき、祈ることのできる環境を整える。
- ・子ども一人ひとりが主体的に取り組み、創造的・意欲的に伸び伸びと活動できる保育環境を整える。
- ・異年齢クラス編成の中で、互いに認め合い、尊敬し、いたわり、協調しあう意識を養っていきける環境を整える。
- ・ありがとう、ごめんね、いいよの思いを自然に伝えることができる環境を整える。

3. 評価項目の達成状況

| 評価項目 | 結果 | 理由 |
|-----------------|-----|---|
| 教育内容・環境の充実と計画性 | 3.6 | 中堅職員が中心となって進めていたが年度途中で産休に入り、若手と異動者では新しいものに挑戦することに臆病になってしまった。創意・工夫、見直しをもって進めることも来年度への課題となった。 |
| 保育の充実と園児との関わり | 3.7 | 1人ひとりに目を配り、丁寧に過ごしてきたが、集団行動が難しいお子さんへの対応に悩むことも多かった。ケース会議を通して、正職・補助職員が共通理解することで協力体制を整えていた。 |
| 安全管理 | 3.8 | 年3回の避難訓練を通して、避難の経験を重ねてきた。煙体験や職員の消火訓練を見ることで、実際の火事の状況をイメージできたように思う。地震対策、不審者対策については今後の課題とする。 |
| 地域の幼児教育機関としての役割 | 3.3 | 園舎解体前に園開放をしたり、町の子ども向け施設に遊びに行くなど、地域に向けて発信するよう意識した。未就園児教室は利用数が増えずにいたが、新規登録者を大切に魅力ある内容としていく。 |
| 教員の資質・能力向上 | 3.5 | 北私幼大会でポスター展示や学園での3年目研修、町の障害研修などに参加し、分かち合うことで大きな学びとなった。また、異動職員から前園の様子を聞き、行事の際など参考にすることもあった。 |
| 保護者との連携 | 3.8 | 日頃の様子については、電話や口頭、連絡帳を通して伝えることで家庭との連携に努めた。場合によっては園長との対話時間を持ち、大きなトラブルや誤解もなく過ごしてきた。 |

※結果の表示方法 4 十分達成されている 3 やや達成されている 2 あまり達成されていない 1 取り組まれていない

4. 5年度の総評

| 結果 | 理由 |
|-----|---|
| 3.6 | <ul style="list-style-type: none"> ・園児数は少ないが、中堅職員が休みに入ったことで、8人体制から6人体制になり、職員への負担は大きかった。また、園舎引越という、どの職員も経験していないことへの不安を抱え保育や行事を例年通り行い、補助職員と力を合わせ本当によく頑張った一年だった。その分、年休を取りにくい状況だったのではと反省が残る。 ・集団生活が難しいお子さんへの対応として、随分と迷いがあった。ケース会議では、職員、補助職員両方が意見を出し合い、方向性見つけようと努力した。今後も研修に参加したり、通所センターとの連携を大切に、学んでいきたい。 ・年度の後半は、園庭遊びや雪遊びなど外での活動ができなかったため、ホール遊びの充実、時にはクラス対抗全員リレーなどを取り入れた。保育を柔軟に考え、子ども達が色々な経験を積み重ねられるよう工夫することが多く、私たちも良い経験となった。 |

5. 来年度に向けての課題

- ・新しい業務について学び、幼保連携型としての幼稚園を整えていく。
- ・どの立場の職員にとっても働きやすい職場となるように、勤務時間や年休消化を意識していく。
- ・教育目標について職員と分かち合い、短い期間での目標を立てて実践していく。
- ・開かれた幼稚園を目標に、園行事や未就園児教室を地域にアピールしていく。
- ・一人でも多くの園児を確保し、園の良さを知ってもらえるよう努めていく。